

千葉市ヤングケアラーに関する実態調査報告書(概要)

1 調査概要

(1) 調査の目的

学校や家庭での生活の中で抱える悩みや困りごとなどに対する設問を通じ、支援が必要と思われる生徒（ヤングケアラー）の状況を調査するとともに、今後それらを解決するために必要な支援策を検討するための基礎資料として、調査を実施した。

(2) 調査対象者

千葉市立学校の小学5年、中学2年、高校1・2年の児童生徒

(3) 調査方法

各学校を通じて児童生徒向け、保護者向けの調査依頼文を配布し、児童生徒本人が原則 Web アンケートフォームにて回答。

(4) 調査期間

令和4年1月24日（月）～2月7日（月）

(5) 回収状況

対象	配布数	回収数	回収率
小学生調査（小学5年生）	7,879 件	1,500 件	19.0%
中高生調査	9,112 件	1,477 件	16.2%
中学2年生	7,675 件	1,167 件	15.2%
高校1・2年生	1,437 件	294 件	20.5%
※学年回答無し	—	16 件	—
合計	16,991 件	2,977 件	17.5%

2 調査結果

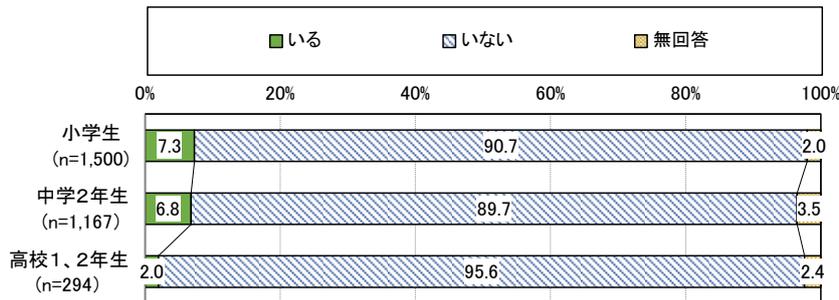
※小学生調査と中学生調査ではそれぞれの対象が設問の意図が理解できるよう、選択肢の表現等が一部異なっている。

(1) 世話をしている人の有無・ヤングケアラーの自覚について

自分が世話をしている家族が「いる」と回答した人の割合は、小学5年生で7.3% (109人)、中学2年生で6.8% (79人)、高校1、2年生で2.0% (6人)であった。

そのうち、中学生調査において、自分がヤングケアラーにあてはまると思うかについて聞いたところ、「あてはまる」が5.8% (5人)、「あてはまらない」が50.0% (43人)、「わからない」が29.1% (25人)、「わからない」が29.1% (25人)であった。

○世話をしている家族の有無 (小学生・中学生)



※学年無回答者のうち、1人が「いる」と回答している。

<国の調査>

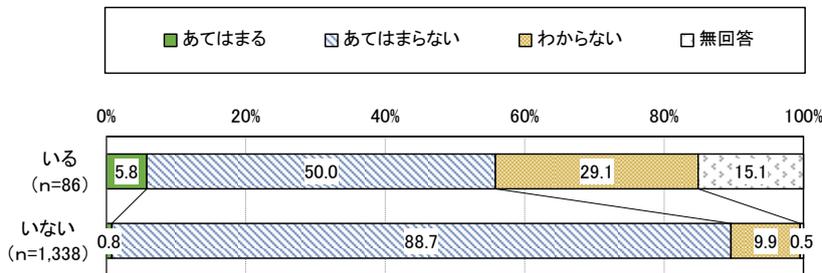
中学2年生

「いる」5.7%、「いない」93.6%

全日制高校2年生

「いる」4.1%、「いない」94.9%

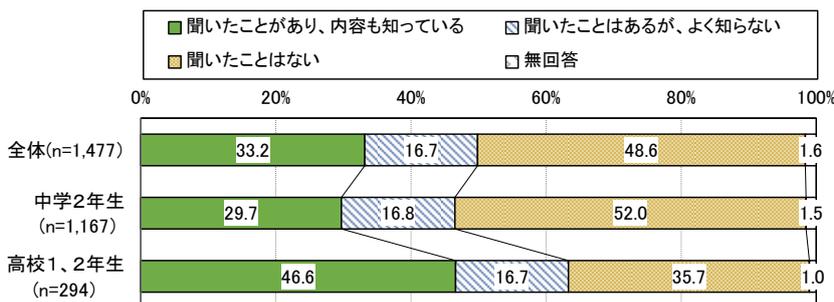
○世話をしている家族の有無×ヤングケアラーの自覚 (中学生)



(2) ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーという言葉について、中学生全体で「聞いたことがあり、内容も知っている」が33.2%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が16.7%となっている一方、「聞いたことはない」が48.6%となっている。

○ヤングケアラーの認知度 (中学生)



<国の調査>

中学2年生

「聞いたことがあり、内容も知っている」6.3%

「聞いたことはあるが、よく知らない」8.8%

「聞いたことはない」84.2%

全日制高校2年生

「聞いたことがあり、内容も知っている」5.7%

「聞いたことはあるが、よく知らない」6.9%

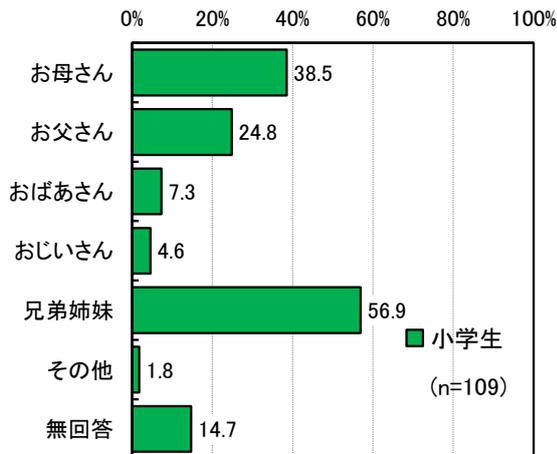
「聞いたことはない」86.8%

(3) 世話の対象、内容

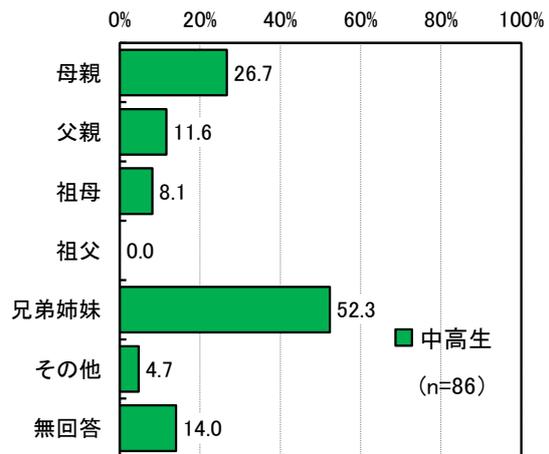
世話をしている対象については、小学生、中高生ともに「兄弟姉妹」が最も高く、ついで「母親」、「父親」となっている。

世話の内容については、小学生では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も高く、他に「話を聞く」、「見守り」、「買い物や散歩と一緒にいく」が高くなっている。中高生では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も高く、他に「見守り」、「兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など」、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」が高くなっている。

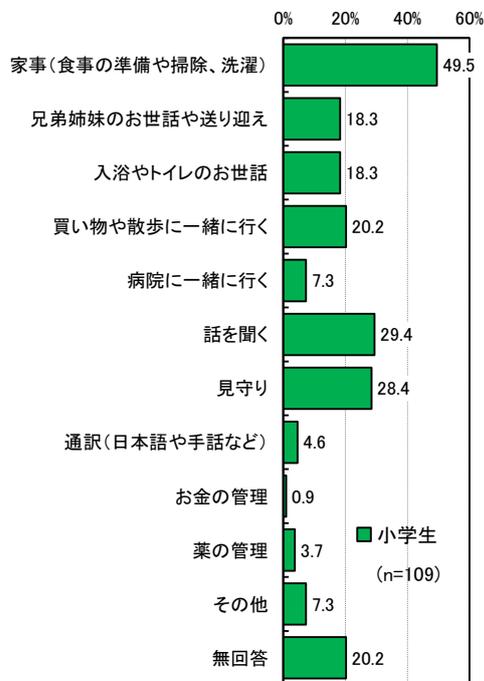
○小学生



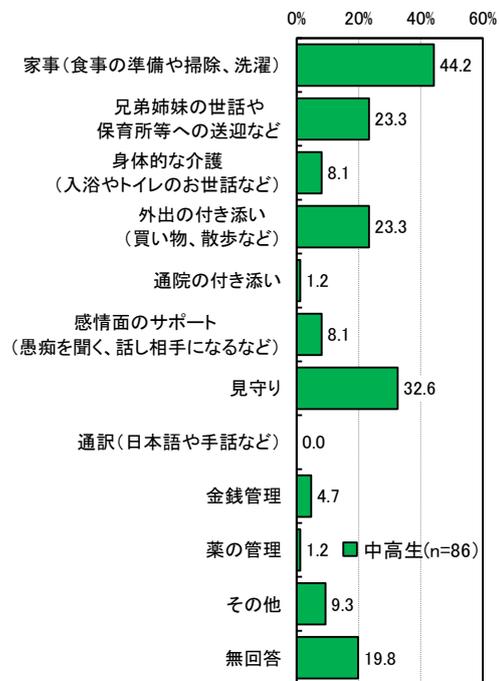
○中高生



○小学生



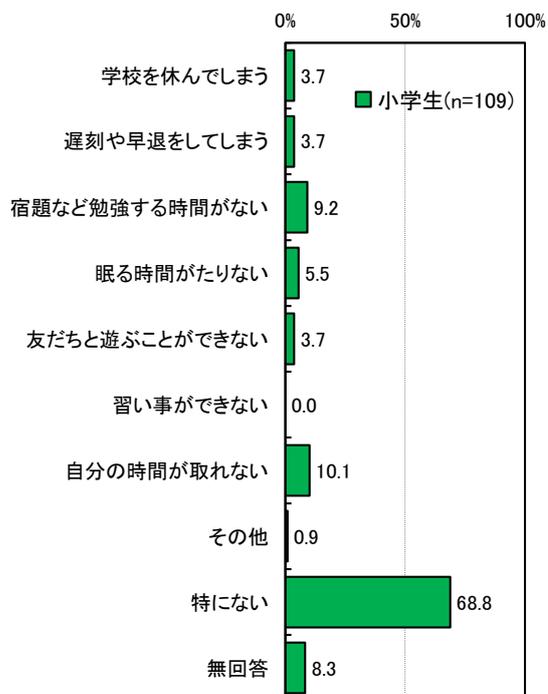
○中高生



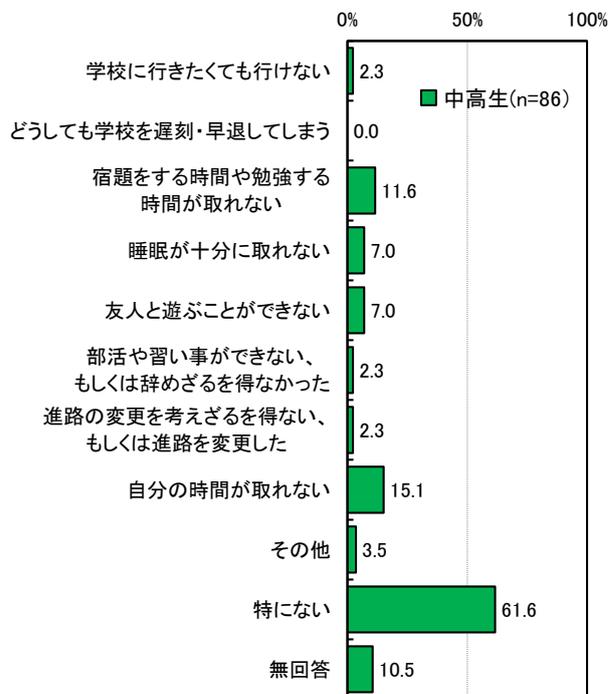
(4) 世話の影響

世話をしているために、やりたいけどできないことについては、小学生、中高生ともに「特
にない」が6割以上となっているものの、その他に、「自分の時間が取れない」、「宿題など勉
強する時間が取れない」といった回答も1割前後みられた。

○小学生



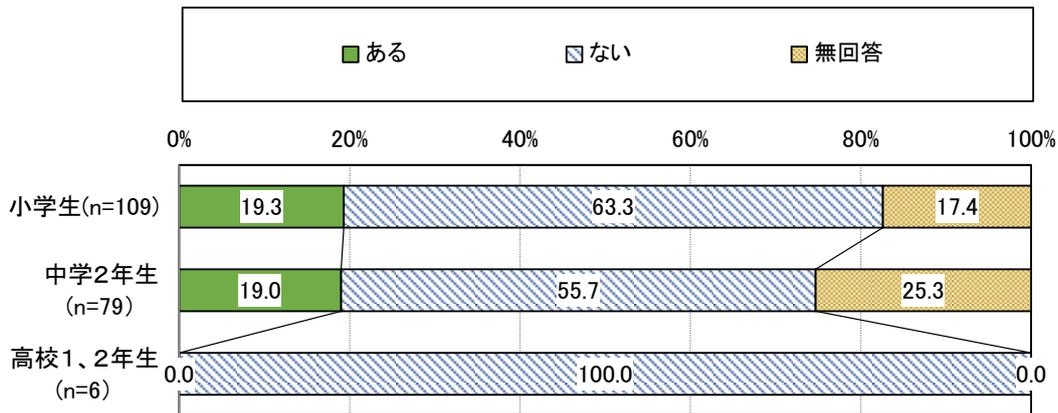
○中高生



(5) 世話についての相談の有無

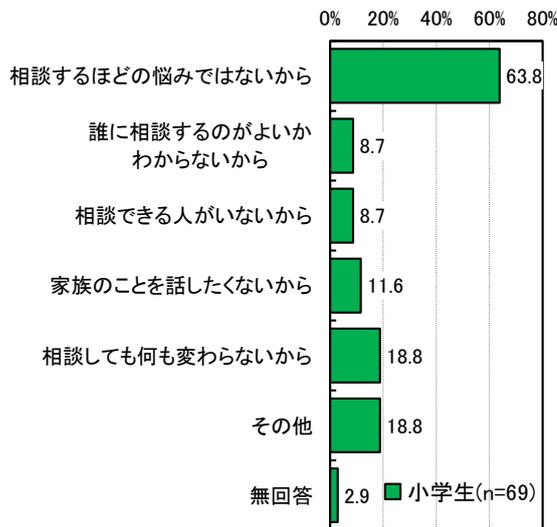
世話をしている家族がいると答えた者のうち、世話について相談した経験は、小学5年生、中学2年生では「ある」と約2割が回答した一方、5割以上が「ない」と回答している。高校1、2年生は全員（6人）がないと回答している。

○小学生・中高生

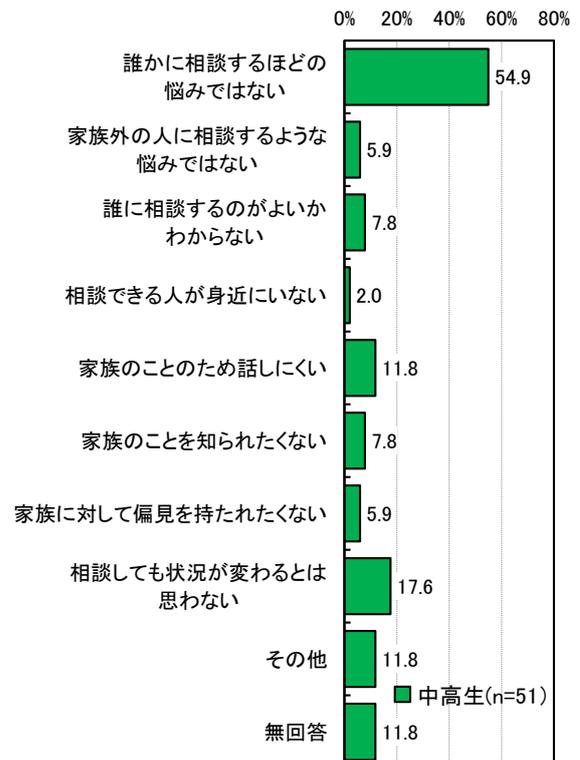


世話について相談したことが「ない」理由は、「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も高くなっているが、他には、「相談しても状況が変わると思わない」、「家族のここのため話しにくい」などの回答があった。

○小学生



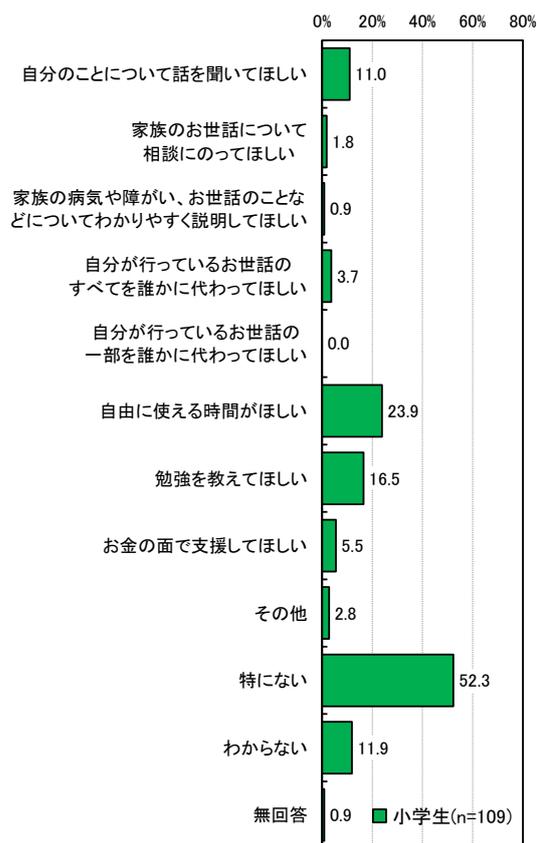
○中高生



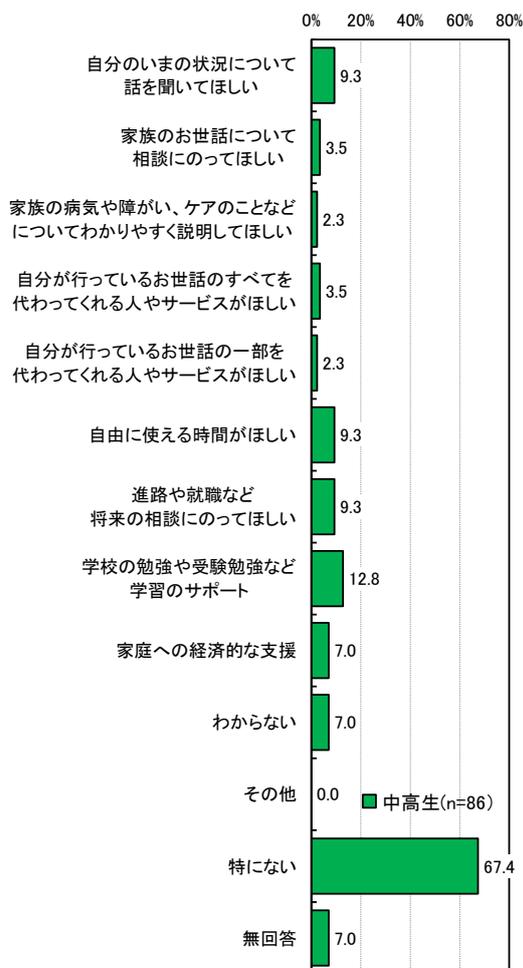
(6) 学校や周囲の大人にしてもらいたいこと

「特にない」が小学生、中高生ともに最も高い（小学生 52.3%、中高生 67.4%）が、小学生では「自由に使える時間がほしい」（23.9%）、「勉強を教えてほしい」（16.5%）、中高生では「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」（12.8%）、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」（9.3%）、「自由に使える時間がほしい」（9.3%）、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」（9.3%）といった回答が他に比べて高くなっている。

○小学生



○中高生



3 考察 (要旨)

- 世話をしている家族がいると回答した割合は、国の調査とは一概に比較することは難しいが、中高生については、国の調査結果と概ね近似した傾向であることが推察される。
- ヤングケアラーの認知度は国の調査と比較し高くなっているが、ヤングケアラーの自覚の状況や、中高生の半数程度が「ヤングケアラーについて聞いたことはない」と回答している状況からも、子どもの周囲の人や子ども自身が、ヤングケアラーとなっている状況に気づけるよう、ヤングケアラーに対する正しい認識についてさらに広めていく必要があるものと推察される。
- 児童生徒が悩みや困りごとを抱えていたとしても、それが潜在化しやすい環境となっているものと考えられる。困ったときに安心して相談できる環境や対応が必要という認識であることがうかがえる。
- 支援の希望があった場合に対応できる環境を整えることについても、検討していく必要があるものと考えられる。